

整形外科医が知るべきスポーツ内科学

スポーツの現場で活動するスポーツドクターは整形外科医が多い。大会や合宿への帯同時には、運動器疾患のみではなく内科系など専門領域以外の医学的問題に対処する必要がある。また、指導者や選手からの医療相談では、医師としての広い分野にわたる医学的な見解や診察を求められる。本特集の「スポーツ現場で活動する整形外科医が知っておくべき内科的知識」について執筆いただいたのは、現在スポーツ医学の第一線で活躍しているドクターである。

メディカルチェックについては、検査内容の具体的な情報のほか、問題となる疾患とその対策について記述いただいた。内科疾患の各論については、トレーニングや競技に影響する呼吸器、循環器疾患のほか、糖尿病などの内分泌疾患や貧血についての知識をまとめていただいた。スポーツ大会帯同時の実際については、夏季と冬季のオリンピックを含むスポーツ大会帯同経験の豊富なドクターから、ご自身の体験も含めた具体例を挙げ解説いただいた。さらに、婦人科における女性特有の問題や、皮膚科における疾患と薬物使用時の留意点は、普段関わることが少ない領域であり整形外科医にとって貴重な情報であろう。ドーピングの項では、過去のアンチ・ドーピング規則違反事例を挙げ、意図しない、いわゆる「うっかりドーピング」についての知識もまとめられた。

以上のように、スポーツ選手に関わる医師として備えておくべき整形外科以外の重要ポイントが網羅された特集となった。お忙しい中、執筆いただいた先生方には、この紙面をお借りして心より御礼申し上げる次第である。選手や指導者から相談を受けた際に、「専門外だから…」と逃げずに適切な対処や専門医への紹介をすることは、信頼されるスポーツドクターの要件である。2020年はいよいよ東京オリンピック開催の年である。地元開催のオリンピックに何らかの形で関わる医師も多いであろう。また、これをきっかけにスポーツ医学に関心を持つ医師も増えることが予想される。本特集が、整形外科医にとってスポーツの医学サポート活動における専門領域外の医学的知識や対処法を習得するための一助となれば幸いである。

(渡邊耕太)